

当院における内視鏡検診の現状

国立病院機構函館病院 外来内視鏡部 ○武藤 真奈美
同 消化器科 久保 公利・加藤 元嗣

【要旨】

函館市の胃・大腸がん検診受診率は全国と比べて低く、受診率の向上が求められている。当院では2017年に内視鏡検診を導入した。当院で内視鏡検診を施行した294例（2017年4月から2020年3月まで）について後方視的に検討した。検診受診者数は2017年度が83例、2018年度が89例、2019年度が122例であった。リピーター数は2018年度が15例（16.9%）、2019年度が36例（29.5%）であった。検診によるがん発見者数は2017年度1例（早期胃がん）、2018年度1例（早期大腸がん）、2019年度2例（早期胃がん1例、早期大腸がん1例）であり、胃がん発見率は0.68%（2/294）、大腸がん発見率は1.60%（2/125）であった。

【キーワード】：内視鏡検診、胃がん、大腸がん

【はじめに】

函館市における胃がん検診受診率は3.3%（全国：8.6%）、大腸がん検診受診率は3.1%（全国：8.8%）と全国に比べて低い^{1,2)}。また大腸癌の標準化死亡比は131.8と高値であることが特徴である²⁾。当院は2017年度に内視鏡検診を導入した。

【目的】

内視鏡検診導入後の受診者数の推移と検診によるがん発見者数（がん発見率）について検証すること。

【対象と方法】

2017年4月から2020年3月までに当院で内視鏡検診を施行した294例（上部169例、上下部125例）について受診者数の推移およびリピーター数、がん発見者数について後方視的に検討を行った。

【結果】

- 1) 受診者は27歳から89歳まで（平均54.4歳）の294例（男性178例、女性116例）であった。
- 2) 受診者数は2017年度が83例（上部51例、上下部32例）、2018年度が89例（上部46例、上下部43例）、2019年度が122例（上部72例、上下部50例）と年度毎に増加した（図1）。
- 3) リピーター数は2018年度15例（16.9%）、2019年度36例（29.5%）であり増加した。
- 4) がん発見者数は2017年度1例（早期胃がん）、2018年度1例（早期大腸がん）、2019年度2例（早期胃がん1例、早期大腸がん1例）であり、胃がん発見率は0.68%（2/294）、大腸がん発見率は1.

60%（2/125）であった。

【考察】

厚生労働省の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（2016年2月4日一部改正）」が改正され、任意型検診のみでなく対策型検診でも胃内視鏡検査が選択肢として追加されることになり³⁾、内視鏡検診の重要性は増している。当院では2017年4月に任意型検診として上部内視鏡検査による胃がん検診（オプションとして下部内視鏡検査による大腸がん検診）を導入した。

受診者数は年度毎に増加しており、当院での内視鏡検診が徐々に周知されつつあると考える。検診で当院を選択した理由については検診後のアンケート調査により1)ホームページを見て、2)知人からの紹介、3)リピーターなどがあげられていた。リピーター数は2018年度16.9%、2019年度29.5%と増加しているが低値である。任意型と対策型の違いはあるが、金沢市対策型内視鏡検診では2011年度から2016年度のリピーター率の平均が63%と報告されており⁴⁾、改善の余地がある。当院の内視鏡検診の利点として1)日帰りもしくは1泊入院の選択肢があること、2)コンシェルジュ看護師による全ての検査への付き添いがあり、内視鏡スタッフによる受診者への丁寧な声掛けや対応も含めて受診者に寄り添っていきたくと考えている。

胃がん発見率は0.68%であり、当院の検査件数はまだ少ないが、日本有数の胃がん検診件数である新潟市の報告（0.88%）⁵⁾と比較し遜色ない結果であった。これは当施設が消化器内視鏡学会の専門医兼指導医を3名有し⁶⁾、日常から「胃炎の京都分類⁷⁾」に従って正確

な診断を行っていることによるものと考え。また大腸がん発見率は1.60%と高値であるが、標準化死亡率の高い函館市の特徴を反映した結果と考える。発見されたがんはいずれも早期であり内視鏡治療の適応であったことから、患者のQOL (quality of life) の維持にも繋がったと考えられる。

【結語】

内視鏡検診受診者数、リピーター数ともに年度毎に増加した。また、検診により4名の早期癌を発見できた。しかしリピーター率は低く、改善の余地がある。今後は内視鏡検診に対する満足度調査を行い、リピーター数の増加に努めていきたい。

【引用文献】

1) 厚生労働省. 平成28年度地域保健・健康増進事業報告の概況. 2016. <http://www.mhlw.go.jp/tokei/saikin/hw/c-hoken/16/index.html>
2) 函館市. 健康はこたて21 (第2次). 2014. <http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014022100219/>

3) 厚生労働省. がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針 (平成28年2月4日一部改正). 2016. <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html>
4) 大野健次, 高島一郎, 二宮 致, 他. 金沢市対策型内視鏡検診における逐年発見胃がんの検討. 日消がん検診誌 2020;58:271-279.
5) 成澤林太郎, 加藤俊幸, 佐々木俊哉, 他. 胃癌検診の現状と今後の展望—新潟市の胃がん検診のデータを基に—. 新潟がんセンター病医誌 2015;54:9-15.
6) 久保公利: 国立病院機構函館病院. Gastroenterology Endosc 2019;61:1716-1718.
7) 春間 賢, 加藤元嗣, 井上和彦, 他. 胃炎の京都分類, 日本メディカルセンター, 東京, 2014.

本論文内容に関連する著者の利益相反なし

図1 当院の検診受診者数の推移

